

## 管理者チェックリスト

(◎:自動、初期対応、○:補助手段あり、手:手作業で対応、-:対象外、原則使わない)

サイト構築時	i-SITE対応	解決方法	JIS
1 自治体名or企業、団体名とその著作権が全ページに明記されているか。	◎	トップページのヘッダ、フッタなどに記載し、全ページ継承する。	
2 適切なページタイトルが設定されているか。例えばサイト名と、ページ名を組み合わせて表示し、一目でサイトと場所が特定できるようにする。	◎	システム定義のSiteTitleにサイト名を記載し、ページ名と合成して一括設定する。	必須
3 サイト全体の問い合わせ先が提示(住所、電話番号、メールアドレス or フォーム)されているか。	◎	トップページのフッタなどに記載し、全ページ継承する。	
4 操作性を統一して使いやすくし、視認性を高めるために、サイト内の主要なパーツのレイアウト、基本的なナビゲーションが統一されているか。	◎	あらかじめ準備されたモジュールを継承して利用する。	推奨
5 ページのサイト内での位置が用意に把握できるようになっているか。またトップページや親階層へ容易に戻れるようになっている	◎	パンくずリストを継承して配置する。	推奨
6 ページ幅が一般的な画面サイズで横スクロールなしに利用できるように構成されているか。	◎	現時点ではXGAサイズ(1024×768)で、ページ幅は最大でも950px程度にする。初期設定されたフレームワークを継承して利用する。	-
7 印刷時の横幅を考慮しているか。	◎	印刷時は750px程度以下が望ましい場合が多いのでそれに合わせる。サイト全体でルール化し、ページごとに変更できないようにする。	-
8 コンテンツ末尾から先頭近辺へのページ内ジャンプができるか。	◎	コンテンツの末尾には「先頭へもどる」などのモジュールを全頁に継承しておく。	-
9 主要ブラウザで著しいレイアウトの乱れはないか。	◎	初期導入時にモジュールレベルではチェック済み。「Microsoft Edge, Google Chrome, Safari, Firefox」の各最新版などで確認する。	
10 更新された情報が明示されているか。	◎	設定により更新マークが自動で付与される。	
11 サイト全体を把握できるサイトマップは準備されているか。	◎	モジュールで自動生成されるが、必要のない階層や見易くするための設定は手作業で行う。	-
12 サイト内の検索機能はあるか。	◎	ビルトインやGoogleの検索機能などを使って構成する。	-
13 音声読み上げソフト、ロボット検索によるページ検索最適化、論理的なページの構造化のため「見出し」タグを入れているか。「リスト」タグなどでコンテンツの性格付けを行っているか。	◎	モジュールのカスタマイズや継承を利用して、各ページにページ名をh1タグとして1つ設定し、ナビゲーションや文書の見出しとしてh2～h6を設定する。また、メニュー、リンクリストなどはモジュール単位ではリスト化する。	必須

14	ブラウザの機能などで文字サイズを拡大する際に障害とならないように、フォントサイズが固定されていないか。	◎	モジュールレベルでチェックする。	必須
15	リンクされることが明確にわかるように、リンクテキストの下線が除去されていないか。もしくはサイト全体でルールが統一されているか。	◎	モジュールレベルでチェックする。アイコンなどがついてハッキリとわかる部分ではデザイン的に省略している場合もある。ただしサイト内で統一していなければならない。	
16	押すことの出来るボタンであることが容易に判別できるか	◎	初期導入時にモジュールレベルではチェック済み、使用時には個別に注意する	
17	テーブル(表組)の読み上げ順序(左から右、上から下)で内容把握できるようになっているか。またレイアウト目的での多用はないか。	◎	フレームなどにTableタグを使わないタイプを使う。	必須
18	音声読み上げソフトで読みやすいように、CSS無効時の表示順が適切になっているか。	◎	フレームなどにTableタグを使わないタイプを使う。	推奨
19	音声読み上げソフトで手間、時間を要する、複雑なナビゲーション、特定の技術やプラグインの「スキップ」が用意されているか。	◎	全体に継承するモジュールに埋め込み、一括で処理する。	推奨
20	html要素、head要素内の文書情報の設定は行っているか。	◎	i-SITEのサイト情報からドキュメントタイプ、使用言語、文字コード指定などを行う。	必須
21	SEO対策としてMeta情報などを設定しているか。	◎	i-SITEのサイト情報からKeyword,descriptionなどの設定を	
22	ブラウザの基本的な機能やGUIコントロール(ツールバー、スクロールバーなど)は変更(非表示、配色変更など)しない。	◎	i-SITEでは変更していない。別途変更しないようにする。	
23	W3CのHTMLチェッカは通ったか。	◎	サイト全体と全ての使用モジュールがW3CのHTMLチェックを通るようにする。	
24	W3CのCSSチェッカは通ったか。	◎	サイト全体と全ての使用モジュールのCSSがW3CのCSSチェックを通るようにする。	
25	操作手段がJavaScript等を用いたものに限定されていないか。	○	i-SITEではJavaScriptを使わない構成も可能だが、操作性が落ちるので、使うようにした構成がほとんどである。JavaScriptを使っている場合にはJavaScript無効環境用の注意メッセージが自動生成される。JavaScript無効時に操作性は落ちるのは仕方ないが、コンテンツは表示されるよう	
26	フレームを使用していないか。	-	原則使用しないようにする、i-SITEではフレームを標準で使用しないようにしている。	推奨
27	フレーム未対応ブラウザへの対応はなされているか。	-	原則使用しないようにする、i-SITEではフレームを標準で使用しないようにしている。	推奨
28	リンク切れの場合のエラー画面を統一し、リカバリ方法などを解説する。	◎	専用の404ページを準備する。	-

1	ページ別の問い合わせ先が提示(住所、電話番号、メールアドレス or フォーム)されているか。	◎、手	各部門のトップページのフッタやその直上のモジュールなどに記載し、下階層ページに継承する。構成によっては定型フォームで作成し、そのIDを記載するだけでよい。	
2	ページ長が一般的な画面サイズで2, 3画面分以上縦スクロールしないでも利用できるように構成されているか。1ページの情報をコンパクトにまとめているか。長くなった場合は分割して目次を設け、先頭近辺からページ内ジャンプできるか。	○、手	以前はパソコンでの閲覧が主でしたが、現在がパソコンに加え、スマートフォン、タブレットなどでも閲覧されており、スクロール移動に対する抵抗感はないので、物理的なサイズよりも、情報のまとまりや読みやすさを重視します。	-
3	音声読み上げソフト、ロボット検索によるページ検索最適化、論理的なページの構造化のため「見出し」タグを入れているか。「リスト」タグなどでコンテンツの性格付けを行っているか。	○、手	準備されたモジュールには自動で「見出し」、「リスト」タグが設定されているが、コンテンツにはHTMLエディタの機能などを利用して、手作業で「h2~h6」のタグや「dl,ol,ul」のタグを	必須
4	適切な内容、長さのページ名を設定しているか。またデザイン的にもタイトルと明確にわかるようになっているか。	手	ページ名はメニューや、パンくずリストにも表示されるので、識別できる範囲で短いほうがよい。長すぎる業務文書のタイトルなどをそのまま利用しない。	
5	メニュー項目が多い場合は並び順を工夫したり、グループ化、階層化を行っているか。	手		-
6	編集で使うブラウザや、その他の主要ブラウザで著しいレイアウトの乱れはないか。	手	あらかじめサイト全体で決められているレイアウトを崩したり、無意味なスペースが空いたりといったレイアウト崩れがないか。またコンテンツ入力後は「Microsoft Edge, Google Chrome, Safari, Firefox」の各最新版などで確認する。	
7	テーブル(表組)の読み上げ順序(左から右、上から下)で内容把握できるようになっているか。またレイアウト目的での多用はないか。	○、手	フレームなどにTableタグを使わないタイプを使う。	
8	音声読み上げソフトで読みやすいように、CSS無効時の表示順が適切になっているか。	○、手	フレームなどにTableタグを使わないタイプを使う。	
9	サイト内からリンクしたり、貼り付けているファイルは原則サイト内においてあるか。	○、手	サイトの取り込みを行った場合は著作権に注意して画像、ファイルの取得も忘れないように行う。	
10	サイト内の用語が統一されているか。定義や解説なしに専門用語・略語・俗語等が使用されていないか。メニューの言葉やアイコンはわかりやすいものが使用されているか。	○、手	使用時には個別に注意する。HTMLエディタでは入力文字チェック、置換え機能がある。	推奨
11	誤選択を行わないように、リンク設定を行う文字や画像部分に十分な面積、また近接する要素との間隔が十分が与えられているか。	○、手	モジュールレベルでは調整済み。フォントサイズを一定以上小さくしない、またリンク時の文字も5,6文字以上にする。20×20px以下の画像にリンクしない。リンクの行間をある程度とる。リンクが続く場合には縦線や斜線、背景画像などで区切りを入れる。	推奨
12	「ここ、こちら」など内容のわからない代名詞でなく、リンク先の内容がわかるリンクテキストとなっているか。	手	コンテンツ入力時には個別に注意する。	推奨

13	リンクされることが明確にわかるように、リンクテキストの下線が消去されていないか。	○、手	コンテンツ入力時にはCSSで表示されるようになっているが、意図的に変更しないように注意する。	推奨
14	リンク先を新しいウィンドウで表示していないか。音声読み上げソフトなどを使っている場合に支障がでる。また戸惑う。	手	i-SITE標準構成ではこのような箇所はない。コンテンツ入力時には個別に注意する。	必須
15	音声読み上げソフトで読み出せないような、また一般に使っていても気づかないような、ステータスバー(リンク先表示部)にメッセージ表示がされていないか。	手	JavaScriptなどでメッセージを出すようなことせず、素直にURLを表示する。i-SITEの標準的な構成ではこのような箇所はない。	推奨
16	ブラウザの機能などで文字サイズを拡大する際に障害とならないように、フォントサイズが固定されていないか。	○、手	コンテンツ入力、CSS設定時には個別に注意する。また、IEで文字サイズを最大にして、レイアウト崩れ、文字重なりなどが発生しないように確認する。ただし元々十分大きい場合はレイアウト崩れを防ぐため、固定の場合もある。	必須
17	Windowsでは大丈夫でも他のOSでは表示できなかつたりする、半角カナや環境(機種)依存文字等が使用されていないか。	○、手	初期導入時にモジュールレベルではチェック済み、HTML文書のオプション設定でチェックが動作可能	必須
18	通貨表記、日付表記に「¥」「.」「/」等が使用されていないか。	○、手	HTML文書のオプション設定によりHTMLエディタでチェックが動作可能。	
19	音声読み上げソフトが対応しやすいように、数値を表すときには半角となっているか。	手	使用時には個別に注意する	必須
20	音声読み上げソフトで支障が出ないように、単語内に不必要なスペースや改行が使用されていないか。	手	使用時には個別に注意する	必須
21	意味が大きく変わる取り消し等の文字修飾の単独使用がされていないか。	手	使用する際には補完するテキストも併記する。	必須
22	漢字など英数字以外のファイル名は閲覧環境によってはインターネット上で表示されない場合があり、また、スペースが入っていると保存できない場合があるが、適切なファイル名・ディレクトリ名が使用されているか。	○、手	使用時には個別に注意する、マルチバイトファイル名を使うときにはアラームが出る。	
23	画像は適切なファイルサイズ、表示サイズで表示されているか。	○、手	表示環境や回線に負担をかけるので、限度以上の画像は扱わないようにする。例えばチラシ、パンフをそのままスキャナで読み込むなど。HTMLエディタでアップロード時にサイズ、種類制限をかけることも可能。	
24	アップロードするファイルのセキュリティは問題ないか。	◎	履歴機能のあるWord、Excelなどのソフトのファイルをアップロードする場合は個人情報保護、セキュリティ上問題ないか確認し、不要な履歴は削除する。	
25	ページロード時間がかかり過ぎないようにページ全体のファイルサイズに気をつけているか。	手	使用時には個別に注意する。HTMLファイルサイズは100KB以内におさまっているか。画像やCSSその他を含め、300KB程度以内に収まっているか。IE8のシミュレーション機能などで確認する。	-

26	ページの表示に要する時間を短くしているか。	手	画像にwidth、height属性は設定されているか。Tableタグの入れ子を多用していないか。	-
27	画像に適切なALT属性が設定されているか	○、手	HTMLエディタで挿入する場合、ALT未設定時はエラーが出る。内容は個別に設定する。確認時はブラウザの機能を利用して、画像表示をオフにしたり、ALT属性を明示して確認	必須
28	音声読み上げソフトのため、リストのマークなど、意味を持たない画像に適切なALT属性が設定されているか。	○、手	HTMLエディタで挿入する場合、ALT未設定時はエラーが出る。意味を持たない画像の場合はALTを空文字列にする。	
29	イメージマップに適切なALT属性が設定されているか。また音声読み上げソフトが対応できるように、サーバサイドではなく、クライアントサイドタイプになっているか。	手	内容は個別に設定する。	必須
30	背景色と文字色のコントラストは十分にとっているか。背景色は原則白にする。	○、手	システムメニューの色覚チェック機能を利用して目視でチェックする	推奨
31	画像内の文字は読みやすいか	手	使用時には個別に注意する	
32	画像のみでは音声読み上げソフトが対応できないので、リンクを叩くことにより画像のみを表示しないようにする。不可避な場合は画像のみが表示されることを説明の上で行う。	手	不可避な場合はリンクをクリックすると拡大画像を表示するなどの説明を加える。	-
33	キーボードのみで操作可能か。また、誤操作がないように、ドロップダウンリストを選択しただけで決定とならないように決定するボタンを用意する。	○、手	モジュールによってはドロップダウンの選択のみで確定するタイプがあるので注意する。JavaScriptのOnClick、OnChangeのみで動作するなどは止める。	必須
34	説明として「青字は○×です。」「右下のプリンタマークの」、など色や形のみで内容を識別させていないか。	手	使用時には個別にパターンや文字、文字の埋め込まれたボタン、ALTのついた画像ボタンで識別できるように注意する	必須
35	テーブルに表題が記述されているか	手	可能であればCaptionタグを設定する。	
36	利用者が戸惑わないように、利用者の意思に関係なくページが自動的に更新されたり、他ページへ移動したりしないか。	-	JavaScriptなどでそのような処理をしないように注意する。単純なリダイレクトを制限するものではない。	必須
37	特定の技術やプラグインが必要な場合、それが明示されているか	○、手	現行サイトでは「お問合せ」下に、「サイトの使い方」ページのリンクが表示します。	必須
38	例えば紙を画像化しただけのPDFや画像のみの動画は音声利用できないが、特定の技術やプラグインの代替手段が用意されているか	手	PDF、動画などだけでなく、HTMLで同様の内容があったほうがよい。PDFであればアクセシビリティが確保されたPDFファイルを用いている。	
39	自動的にBGMなどを流していないか。動画や音声で情報提供している場合、利用者が開始、音量、停止などをコントロールできるようになっているか。テキストなどによる同等の情報を提供している	手	使用時には個別に注意する	必須
40	点滅する文字(画像文字も含む)、スクロール文字(レイヤー等含む)が使用されていないか	◎、手	i-SITEでは標準のNew!画像がアニメーションになっているが、アイキャッチのためであり、数秒で停止する。個別に使用する場合は注意する。	

41	ファイルダウンロード時、ファイルのデータ形式やファイルサイズが明示されているか。	○、手	HTMLエディタを使って、アップロードしたファイルを取り込むときには自動でファイル名、サイズも付与される。	
42	フォームに入力する内容は必要最小限にしているか。	手	使用時には個別に注意する	
43	フォームはラベルとコントロールの関係を設定しているか。とくにチェックボックスやラジオボタン。	○、手	アンケートでフォームを作成すると自動生成される。既存のHTMLを利用する場合は個別に注意する。	必須
44	フォームの各入力項目は入力目的や条件を明示しているか。	手		必須
45	フォームの入力条件に合わない場合は、エラーを出し、入力された内容と共に対処策を明示しているか。	◎	自動チェック機能あり	必須
46	フォームを送信するまえに入力内容が確認できるようになってい	◎	自動チェック機能あり	必須
47	フォームを入力する際の時間制限を明示しているか。	手	使用時には個別に注意する	推奨
48	画像漏れ、リンク切れがないか。	○、手	システムメニューのリンクチェック機能を利用してページからのリンクが切れていないか確認する。一部CSSの背景画像など対象外のものを目視で確認する。	
49	W3CのHTMLチェックは通ったか。	手	ページがW3CのHTMLチェックを通るようにする。チェックサイトから直接接続できない場合はセキュリティ上問題ない場合はファイルアップロードしてチェックする。ワードやExcelをコピー＆ペーストしてHTMLエディタに貼り付けた場合は余分なタグを掃除する機能を使う。	
50	W3CのCSSチェックは通ったか。	手	ページがW3CのCSSチェックを通るようにする。チェックサイトから直接接続できない場合はセキュリティ上問題ない場合はファイルアップロードしてチェックする。	
51	scriptエラーが発生していないか。	手	対象ページでブラウザ(Chrome、Edge、Firefox等)の開発者ツールの「コンソール(Console)」より、ページ更新時にエラー表示のないことを確認する。	